






















































## ◎ 県内の景況(情報連絡員報告から)

<10月> 業界の景況(前月比DI値)

消費増税、台風などが影響し、全体の景況は依然として  
 厳しい状況である。

情報連絡員報告をもとに景況についてDI値を作成しました。業界の景況  
 についての項目を「好転」割合から「悪化」割合を引いた値をもとに作成し、  
 その基準は右記のとおりです。

30以上	10~30未満	10未満 ~△10	△10超~ △30未満	△30以下
				

業種		業界の景況(前月比DI値)			
		令和元年7月	令和元年8月	令和元年9月	令和元年10月
製造業	食料品製造業	 0	 △ 50	 0	 △ 17
	木材・木製品製造業	 0	 0	 0	 0
	印刷・出版 同関連製造業	 0	 △ 100	 0	 △ 100
	窯業・土石製品 同製造業	 0	 △ 33	 △ 33	 0
	鉄鋼・金属 同製造業	 △ 67	 △ 33	 △ 33	 △ 33
非製造業	卸売業	 △ 40	 0	 △ 20	 20
	小売業	 △ 50	 △ 33	 △ 50	 △ 67
	商店街	 △ 33	 △ 33	 △ 33	 △ 33
	サービス業	 △ 14	 △ 17	 △ 17	 △ 33
	建設業	 △ 17	 △ 17	 △ 17	 0
	運輸業	 △ 33	 △ 33	 △ 50	 0
その他	 0	 0	 0	 0	

各業界の詳細(前年同月比、業界の動き)が必要な方は本会までご連絡ください。

2. 組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
味噌醤油業界	<p>味噌は売上の伸びが続いており、非常に喜ばしい。今年も県主催の「まるごとフェスティバル」に出店し、仙台みその展示販売としょうゆの展示を行った。更に仙台みそのいも煮と宮城のしょうゆを使ったつみれ汁を食べて頂く企画も開催した。初日は残念ながら大雨の影響で人出は少なかったが、二日目は好天にも恵まれ、大勢のお客様が見え、午前中で汁物が完売という大変ありがたい一日となった。お客様と直接お話が出来るため、生の声が聞けたことも大きな収穫であり、このようなイベントに若手組合員と共に仙台みそ、宮城のしょうゆのPR活動が出来ることも大きな意義があると思っている。これからも継続してイベントに参加し、仙台みそが健康維持のために良いことをPRしていきたいと考えている。</p>
製パン業界	<p>中小のパン店は学校給食用パンを手掛けている所が多く、各地域のパン店が近隣の学校を受持ち、エリア分けをすることで児童・生徒が数人の学校にも漏れなく給食のパンが届く体制にしてきた。全国的に児童・生徒の減少、後継者難、加工賃の伸び悩みなどで廃業が続き、その体制も維持出来なくなってきている。従来、中小パン店で担ってきた学校給食パンであるが、大手にも協力を求めていかなければ体制が維持出来ない県が出てきているようだ。</p> <p>宮城県は協業組合化を行ったことで、当分は現体制を維持できる見込みだが、いずれ維持できなくなる時が来ることを今から考えておかななくてはならない。</p> <p>学校給食のパンは全国平均で週1.3回まで減少しており、学校給食でのパン食がその後の需要にも大きな影響を及ぼすという観点から、大手も週2回のパン給食を目指して学校パン給食推進協議会を設立して活動が始まっている。</p>
冷凍業界	<p>巻網サバ漁等が毎年10月末頃には石巻港に水揚げされていたが、海水温が高い影響で水揚げなく、漁期が毎年ずれてきている。</p>
水産練製品業界	<p>年々、温暖化の影響が売上にも響いている。 コストの上昇が続いており、各社経営が厳しさを増している。</p>
酒造業界	<p>消費税増税による影響か昨年同月比で5%強出荷数量が減少した。当県の日本酒は価格競争がさほど激しくないゾーンの商品が大部分で、消費税率2%アップがこれほど出荷数量に影響するとは予想していなかった。消費税増税による可処分所得の減少など、直接的な消費税額のアップばかりではない、複合的な要因によるものと考えられる。</p>
木材業界	<p>県内の9月の住宅着工数は1,159戸で、前月比29%、前年同月比31%の大幅減少となり、特に貸家が半減した。月間1,100戸台は平成</p>

	<p>24年6月以来の少なさである。今年度上半期の総数は全国では前年比5%減のところ、県内では9%減と落ち込みが大きい。</p> <p>台風19号の浸水等により、機械類や製品在庫等で15組合員に被害があり、自力でおおむね復旧したが、復旧への支援策が望まれる。</p> <p>原木は出材が少なく、一部で値上がりし、今後も値上がりすると思われる。製品は価格が相変わらず横ばいながら、荷動きは好調である。板類等に災害復旧需要も出ている。合板は製品の荷動きが順調なところへ、災害復旧需要もあり好調な荷動きが続く。ただ、災害により合板用原木の出材減が懸念される。</p>
生コンクリート業界	<p>10月の出荷量は、前月より3.7%減少した。地域別で見ると仙台などの4地域で前月並み、気仙沼及び県北は減少した。前年同月比では、7.2%の増加で、石巻は特需案件、仙台は民需、大崎は前年同月が少なかったため増加した。県北は官民需ともに少なく減少、県南は台風19号による豪雨災害により減少した。</p> <p>4月から10月までの年度累計では、8.8%増加しており、石巻、気仙沼の復興関連、仙台は民需が貢献している。</p> <p>その他、10月1日付けで組合へ1社が加入した。</p>
コンクリート製品業界	<p>組合員の9月の出荷量は、前年同月比83%と減少した。前月比では、134%と大幅に増加した。</p> <p>4月からの累計は、前年比83%、在庫は107%であった。今後に向かって生産量と共に、さらなる在庫管理等が必要な時期となっている。</p> <p>(※コンクリート製品業界は、とりまとめ時期の関係から1ヶ月遅れの報告です)</p>
砕石業界	<p>台風19号による災害復旧関係の骨材供給が予測されるが、丸森町や石巻市では砕石場周辺の道路の損壊や停電により、急な出荷対応が困難な状況にある。</p>
機械金属業界 A	<p>対前月、前年同月とも全体的に停滞傾向にある。</p>
機械金属業界 B	<p>先月に引き続き長期仕掛品の売上等によって、売上・収益ともに前月より好転した。</p>
再生資源業界	<p>10月の鉄スクラップ市況は、9月で大幅下落となったが、小康状態の横ばいとなった。米中貿易摩擦による中国経済の減退感があるとともに、国内ではオリンピック需要の終了が要因で鉄鋼価格は横ばいから下振れ気味である。しかし、大幅な鉄スクラップ価格の下落から、底を打った状態であると思われる。供給側では全国的な老廃スクラップの発生減が顕著に見受けられる。</p> <p>古紙も引き続き中国向け輸出量枠の制限が続いているが、価格は横ばいである。ダンボール、雑誌、新聞の三品においては荷余り感が継</p>

	<p>続し、12月頃まではこのトレンドが続くと思われる。</p> <p>台風19号の甚大な被害により、家電廃棄物等の大幅な発生はあるが、最終処分場の受け入れ制限などもあり、処理が困難な地域も見受けられるのが今後の業界の課題となっていくと思われる。</p>
繊維業界	<p>増税後の動きが非常に悪く、冬物商材の追加注文がこないが、シニア向けの厚手商品の動きが後半良くなった。</p> <p>暖ったか素材に新アイテムが多くでてきているので期待したい。</p>
ゴム製品卸売業界	<p>10月は天候が影響した。台風、大雨で9月は好調だった農事関連に被害があったようで、販売に影響が出た。工場関係も10月に入り低調のようで、これから年末にかけて多少の期待はあるが、大きな期待はできないのが現状である。</p>
鮮魚卸売業界	<p>ようやくサンマの入荷量が増えてきた。さらに、メバチマグロが連日入荷している。ブランドマグロの三陸塩竈ひがしものは水揚げの1割程度で推移している。</p>
鮮魚小売業界	<p>今月三度の強力な台風は、漁業にも大きな被害をもたらした。この為、魚の入荷が少なく苦しんだ月であった。</p>
青果小売業界	<p>初旬頃は天候にも恵まれ、青果物の生育も順調で価格も安定していたが、台風19号の襲来は主要生産地のみならず、各地に未曾有の被害を与えた。</p> <p>野菜の生育品質にも大きな影響を及ぼし、果実は落下、葉物類は品質低下、畑で腐敗してる物が多くなり、日増しに市場入荷量は激減、価格も高騰した。</p> <p>品質が悪くて値段が高い最悪のパターンで、売上は伸びず、利益の薄い月であった。特に、消費税増税の影響は消費者のサイフの紐を固くしはじめている感が徐々に出てきていると感じている。</p>
家電小売業界	<p>消費税増税から1ヶ月が経過し、反動も薄れつつある様子が見られる。白物家電の不振を映像関連やPC、オーディオ等でカバーしている。多くの企業が減収減益となっている中、年末商戦にむけて準備を本格化させている。</p>
石油小売業界	<p>原油相場は、石油輸出国機構（OPEC）と主要非加盟国による原油の減産強化を検討している背景があるため上昇基調にある。原油の調達コスト上昇も伴って、小売販売価格は小幅な値上がりが見込まれる。</p>
花卉小売業界	<p>当月の売上については、前年同月比で81.5%と前年を大きく下回った。要因としては、連続的な大型台風の襲来、記録的な大雨により、千葉県を中心とした国内の生産地が大打撃を受けたこと、流通への影</p>

	<p>響、災害による需要の大幅減少があったためである。災害の影響により、店舗販売も大きく影響を受けたが、一般生花店と大型施設内のテナント店舗では、影響の度合いが異なった。テナント店舗では影響が少なめで、一般生花店では影響が大きかった。また、10月からの消費税増税も、売上低迷の要因として背景にあるものと考えられる。</p>
商店街	<p>(仙台地区A商店街) 労働力不足が課題となっており、消費税増税の影響もある。インバウンド需要の取り込みなどが重要となっている。</p> <p>(仙台地区B商店街) 10月からの消費税増税に伴い、飲食関係の値上げが目立つ。客数は減ることもなく、売上だけは伸びた。</p> <p>(大崎地区A商店街) 10月は台風の襲来や大雨による水害の発生によって、恒例の秋祭りなどが軒並み中止となり、消費税増税のマイナス効果と合わせてダブルパンチとなり、全体的に商況はかなり落ち込んだ月となった。 特に注目されているキャッシュレス対応について調査をしたところ、実際に稼働している商店42店舗中18店舗ほどが期間限定の還元策への対応が出来ており、従来のカード決済が可能な店舗も含めると、60%程度の店がキャッシュレス決済可能となっている。関係店舗からは、売上が清算されるまでの期間の資金繰りや、今後発生する手数料についての不安の声が聞かれた。</p>
クリーニング業界	<p>温暖化の影響で衣替えの時期が読めない上、年々クリーニングの消費が減少している。</p>
自動車整備業界	<p>持込車検台数は3.7%の減少と昨年並みとなった。台風19号の影響で県内各地の整備工場約100社が浸水等の被害にあった。特に丸森地区、石巻地区の被害が多かったが、丸森地区の一部を除いて復旧している。浸水車両の引き取りや修理依頼が多く発生し、代替のレンタカーや中古車が不足している。新車販売も消費税増税で下期は固く見積もっていたが、台風の影響で大きく落ち込み25%の減少となった。内訳は、普通車（登録車）26.4%減、軽自動車22.3%減である。</p>
ソフトウェア業界	<p>IT業界の一部では「働き方改革」関連のシステム改修で多忙のようだが、対応が後手に回っているという案件もあるようだ。法改正等に伴うシステムの改修は、対応が必要となる企業・団体が多く発生する為、詳細な改正内容が早めに関示されないと対応待ちとなるため、もっと早くに確定した情報を出して貰う事を望む。毎回このパターンでは、我々中小のIT業界の働き方改革は当分先になりそうである。</p>
警備業界	<p>警備業法施行規則の一部が改正され、8月30日から施行された。</p>

	<p>これにより、警備員教育における教育時間数の見直し、実施可能な講義方法の拡大等、警備事業者にとって警備員教育に関して一定の裁量の拡大が図られたものといえる。すなわち、各警備会社毎の特徴が出し易くなったものと考えられる。それぞれの会社が自社の警備員に対して、独自性のある教育を実施する事により、警備員の質の向上が期待できる。反面、教育を手抜きすると警備の質を落とす事も事実であるため、警備事業者の責任が一層重くなる。</p>
湾岸旅客業界	<p>昨年 10 月は上旬に台風があり、悪天候気味であったが、中旬より概ね天候に恵まれ、紅葉シーズンも相まって客数・売上は好調であった。</p> <p>今年の 10 月は相次ぐ台風、暴風雨により予約キャンセルも多く、交通網への影響も長期にわたり、大打撃となった。売上は前年比 4 割減、客数で 3 割減と大幅な減少となった。</p>
観光業界	<p>台風 19 号による直接的な被害は数軒にとどまったが、組合員の約 4 割の届けだけで、キャンセルによる被害は延べ 15,000 人、2 億円を超えるものとなっている。また、被災者に対する無料入浴支援を行っている。</p>
建設業界	<p>10 月 12 日から 13 日にかけて、大型で猛烈な台風 19 号が宮城県を縦断し、県内にも甚大な被害をもたらしたことから、地域建設業は 24 時間体制での応急復旧に尽力している。東日本大震災が終盤の総仕上げの段階にあるなかで、今後、台風 19 号の本復旧が重なってくることからより窮屈な施工が強いられる環境においては、現場実態に即した積算体系等の被災地特例施策の継続やさらなる施策の増強が望まれる。</p>
硝子業界	<p>住宅サッシ関連の販売は前年比 90%位で推移しているが、新規網戸、張替え、ガラス修繕、内窓サッシなど、リフォームは大きく減少傾向である。</p> <p>働き方改革の実施による労務管理が問題となるが、住宅サッシ等の重量化により、現場搬入に複数人を要するため、怪我や事故も心配である。</p> <p>今後、健全な経営には、専門知識と技術力を一層高め、お客様のニーズに応えられれば商機はある。</p>
板金業界	<p>10 月の組合員の経営に関しては、前年・前月とも変化は無かった。台風による水害が異常に多い月で、千葉県の場合より応援の依頼があった。</p>
タクシー業界	<p>実車率は前月と変わらないが、輸送収入は大幅に減少している。LPG 価格が若干値上がりした。</p>

軽自動車運送業界	<p>台風 19 号による大雨により、仙台市宮城野区扇町地区では雨水による水害が発生した。当組合では一部作業場が浸水し、預り物等が水に浸かった。また、車両数台、自動販売機も被害にあった。事務所、倉庫に被害は無かった。</p>
倉庫業界	<p>前月比の売上高は、ほぼ同程度である。品目別では、米などの農産品の入庫量が増加しているが、他の品目は入・出庫量とも減少傾向にある。</p> <p>前年同月比の売上高も、ほぼ同程度である。品目別では、入庫量は、農産品、窯業品、木材等雑品で増加がみられるが、他の品目は減少傾向にある。出庫量は、電気機械等金属製品、化学工業品や紙・パルプで増加がみられるが、他の品目は減少傾向にある。</p>
不動産業界	<p>改正民法の原則的な施行期日が 2020 年 4 月 1 日とされているが、不動産賃貸に関する主なものは、①敷金の明文化、②原状回復に関するルール of 明文化、③連帯保証条項に極度額を定める等があり、特に賃貸借契約書の連帯保証条項には、極度額（例えば「〇〇万円の範囲内で連帯保証する」といった条項）を設定する必要がある。しばらくは旧法と新法が混在するが、より明確な取引が求められることになる。</p>